

教員名	徳井 淑子 (TOKUI Yoshiko)
所 属	生活科学部人間生活学科生活文化学講座
学 位	博士 (学術 2003)
職 名	教授
URL / E-mail	http://www.aesthe.ocha.ac.jp/fukshok%20history/ / tokui.yoshiko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

色彩文化 / 紋章 / 中世ヨーロッパ / 服飾

◆主要業績

総数 (4) 件

- ・徳井淑子『色で読む中世ヨーロッパ』講談社 238p. 2006年6月
- ・徳井淑子「涙のドゥヴィーズの文学背景：<心と眼の論争>」
お茶の水女子大学『人文科学研究』第3号 2007年3月 pp.29-40
- ・徳井淑子「男装の表象：19世紀フランス文学の二人のモーパン嬢」
『科学研究費補助金基盤研究(C)「服飾におけるジェンダーの比較文化的研究」報告書』2007年3月
- ・徳井淑子「ヨーロッパの性差の文化の根源：ウオルター・マップ他著
瀬谷幸男訳『ジャンキンの悪妻の書』書評」図書新聞 2006年9月

◆研究内容

1. 中世ヨーロッパ服飾のシンボリズム研究の一環として、フランスを中心に、文学・図像における表現・表象の分析から色彩感情を考察。本年度は、これまでの調査を総括し、色彩による表示社会を生きる中世人の心性を考察した。
2. 中世服飾文様の意想研究として、中世末期の文学テーマ《心と眼の論争》が、涙文のドゥヴィーズの流布の背景にあったことを明らかにした。
3. 異性装研究として、19世紀フランスの作家テオフィル・ゴーチュ『モーパン嬢』、およびバルザック『ベアトリックス』を史料に男装の表象について論じた。

◆教育内容

服飾の歴史を通してヨーロッパの人々の感性を知るには、どのような資料を使い、どのようなアプローチがあるのか、西洋服飾史の調査の方法を解説するとともに、西洋服飾史の基礎知識、および服飾文化を学ぶための基礎論を講義した。
またフランス中世服飾に関する論文の講読と、18・19世紀の版画史料の分析から服飾史の論文を作成するための基礎演習を担当、ヨーロッパの生活文化に関する卒業論文の指導へと繋げた。

◆Research Pursuits

1. Study of mediaeval mentality in Europe through the symbolism of colors in the French literature and iconographie.
2. Study of the literary motif "Strife between the heart and the eye", a source of the tears device in the late mediaeval France.
3. Study of the transgender costume through the French texts of the 19th century : "Mademoiselle de Maupin" of Th. Gautier and "Beatrix" of H. de Balzac.

◆将来の研究計画・研究の展望

紋章、またはドゥヴィーズの意想研究の事例を拡大し、中世ヨーロッパの心性研究として位置付けたい。当面は文学背景が明らかになった涙文、および眼の文様と対になって登場する心の形象化について調査する。

◆受験生等へのメッセージ

現代ファッションは多様ですが、過去のファッションはさらに多様であり、少なからず今日のデザインの源泉になっています。形態上の類似は、しかしながら表現するものの類似を意味するわけではありません。そこに示されている人の心は時代によって異なります。過去の人々の服飾表現を知ることは、私たちの着衣の文化をより豊かにします。

◆Educational Pursuits

Lecture and seminar on cultural and historical studies of clothes, especially through the literary and iconographic sources in order to clarify the sensibility of Europeans.